

みんなでつかんだ全国大会

黒沢尻北高校文学部部長3年

菊池 達海さん

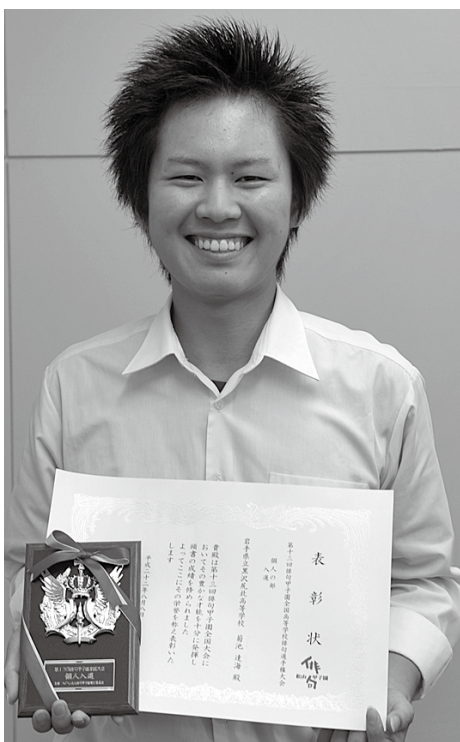
黒沢尻北高校文学部は8月7・8日の両日、愛媛県松山市で行われた第13回俳句甲子園に出場しました。

俳句甲子園とは、高校生を対象とした俳句コンクール。俳諧の句合を5人1組の団体戦で行い、俳句の良しあしだけでなく、その俳句に対する議論(鑑賞の力量)も採点され、審査員の多数決で勝敗が決まります。

菊池さんは「愛媛に行きたい」と、他部のクラスメイトに声を掛けて、地区大会の俳句の締め切り3日前に4人集めました。5人全員が理系ク



大会が終わり、記念撮影【黒沢尻北高校提供】



ラスの男子で、このうち4人が俳句を作るのが初めてという異色メンバー。俳句には自信がなかったが議論で挽回しようと思ひました。菊池さんは「このようなメンバーだから、いろいろな視点で考えることができて良かった」と話していました。そして、初挑戦で見事優勝し、全国大会への切符を手に入れました。

全国大会の兼題が出されると、夜遅くまでメンバーが集まって学校などで句を考える日々。締め切り日ギリギリま

で考え、全国大会に出場しました。

結果は残念ながら予選リーグ敗退。しかし、菊池さんが詠んだ句『秋葉原 男二人の晩夏かな』が高校生らしい等身大の句と評価を受け、個人賞を獲得しました。「個人賞にはビックリした。でも団体戦で勝って、みんなで喜びたかった。負けたことは悔しいけど、みんなと楽しく試合ができたことが、高校生活で一番の思い出になりました」と笑顔で話していました。

国際交流ルーム発



ハロー! まいふれんど 123

JICAのマレーシア研修

昨年12月にJICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2009で最優秀賞の外務大臣奨励賞を受賞した朴志海さん(上野中学校3年)。この夏休み中、副賞の海外研修でマレーシアに行ってきました。7月24日から8月1日まで、北東部クランタン州都・コ



中高一貫校で民族衣装の交換をする朴さん(前列左から2番目)

イも体験しました。
朴さんは「中高一貫校ではお互いの国の民族衣装を交換して交流を深め、ソーラン節の踊りを披露したことが印象に残っています。マレーシアはイスラム教国なので、特にモスクでは女性は髪の毛をスカーフで隠します。地方と都会では貧富の差が大きいですが、皆さん親切で思いやりがあり、また行きたい国です」と充実した海外研修の感想を話していました。

国際交流ルーム
電話・ファクス: 63-4497
電子メール: kiah@kitakami.ne.jp
おでんせプラザぐろーぶ3階 生涯学習センター内
開館日: 毎週月-土曜日 午後1時-7時
休館日: 日曜・祝日、第3水曜日、年末年始



中央図書館 ☎ 63-3359

江釣子図書館 ☎ 77-2215

和賀図書館 ☎ 72-2322

子ども武士道 高橋 和の助
コイ・フナの絵本 たかみざわ けさお
見習い警察犬ききな子 ひろはた えりこ
たちねぶたくん 村上 康成
子どもの「やる気」のコーチング 菅原 裕子
いい医者いい患者いい老後 永 六輔
内藤 いづみ
薬草 平野 隆久
ブラチナデータ 東野 圭吾
ズルい言葉 酒井 順子

《8月の新着本から》

『すぐにさがせる！光る星座図鑑』

えびなみつる 絵・文
旬報社 出版

夜、「光るインク」が使われているこの本を、星空に
かざして星座を探ることができます。わし座、はくち
ょう座も簡単に探せるよ。



『ビッグイシューの挑戦』

佐野 章二 著
講談社 出版

ホームレスの仕事をつくり、自立支援を応援する雑誌『ビッグイシュー日本版』を創刊した著者の軌跡を描く。



きたかみ物産館



北コロ定食500円(単品230円)
北コロそば・うどん、北コロ
バーガー(期間限定)も人気

北上金ケ崎
パーキングエリア(下り)

相去町中平沢6-2 ☎ 67-2586
※一般道入口から入場できます

高速道路から北上を全国へ発信
北上コロッケ

▶▶ ⑤③



高橋 順子 さん

基本のレシピを手作りで
市外のお客さまが多い場所
柄、外からの反応が直接伝わ
ってきます。コロッケの知名
度も上がり、繁忙期は一日2
00個もの売り上げに。名が
知られるほど、そのイメージ
と品質を大切に、丁寧に作
り提供しています。地域に貢
献したいという思いで、地元
のPRに努めています。

散歩道

123

北上市長 伊藤 研

朝のさえずり

孟浩然、春曉詩の一節「春
眠不覺曉、處處聞啼鳥」の
時期を過ぎると、朝の目覚
めは早くなり、新聞受けの
カタンという音が目覚まし
代わりとなる。

外に出て深呼吸をすると、
小鳥のさえずりが聞こえて
気持ちがいい。日中のスズ
メや聞き慣れた鳥たちのさ
えずりとは違う鳴き声の方
向に目を向けるが姿は見え
ない。時として、子ども
ころに聞いた懐かしい鳴
き声や初めてのものもあり、
朝起ききのさわやかな気分を
満喫して大きく背伸びをす
る。

若いときは朝は眠い、カ
ラスは年中うるさい、ハ
トもうるさい、季節の鳥・
カッコウも鳴きすぎるとう
るさくて腹が立ったものだ
が、今の年齢になると朝は

早い。時として新聞の「が
さがさ」がうるさいと妻か
らのブーイング。
ウグイス、ヒワ、ヒヨドリ
などなど、庭には季節に
よりさまざまな鳥がやって
くる。

子どもころ「カーン、
カーン」という鳴き声を聞
いて「かねたき」が来てい
ると父が言っていたが姿は
見たことがない。最近では
聞くこともない。野鳥の生態
や自然の環境は変わってい
るのだろうか。

本屋で野鳥図鑑を衝動買
いしてしまつたが、猛暑で
バードウォッチングに足は
向かない。

庭に来る鳥たちの声はす
れども姿は見えない。朝か
らセミが元気で小鳥たちの
声は圧倒されている。いま
だ図鑑は役に立たないが野
鳥の散策に役立つこともあ
ろう。

西行はこの地で「陸奥の
かど岡山（おのづか）のほととぎす（ほととぎす）稲瀬
の渡り（わた）かけてなくらん」と
詠んでいる。景色のいい
ところには鳥も寄ってくる
のであろう。